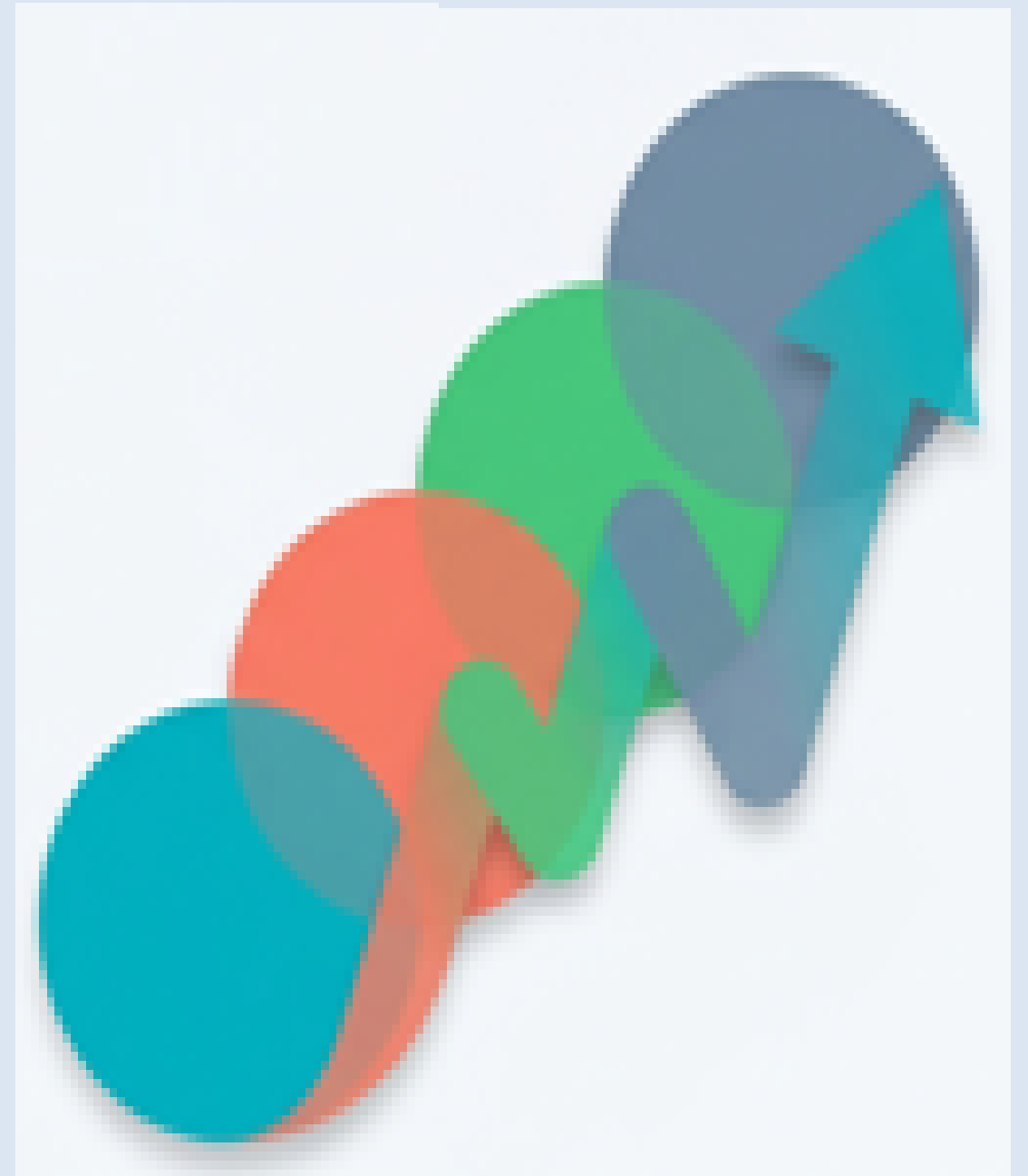


# 令和7年度 教育活動に関する アンケート（児童） 結果報告

対 象：全校児童  
時 期：2026年1月  
回答率：93.3%  
発 行：2026年3月



# 児童は充実した学校生活を送る一方、生活習慣と見えない不安に課題

## 【知】学習・意欲

- ✓ 強み: デジタル学習への高い意欲
- ⚠ 課題: 読書習慣の定着

## 【徳】心・人間関係

- ✓ 強み: 思いやりと深い友人関係
- ⚠ 課題: クラス内の隠れた悩み

## 【体】生活・習慣

- ✓ 強み: 基本的な生活スキルは自立
- ⚠ 課題: 睡眠サイクルの乱れ

## 【環境】安心・安全

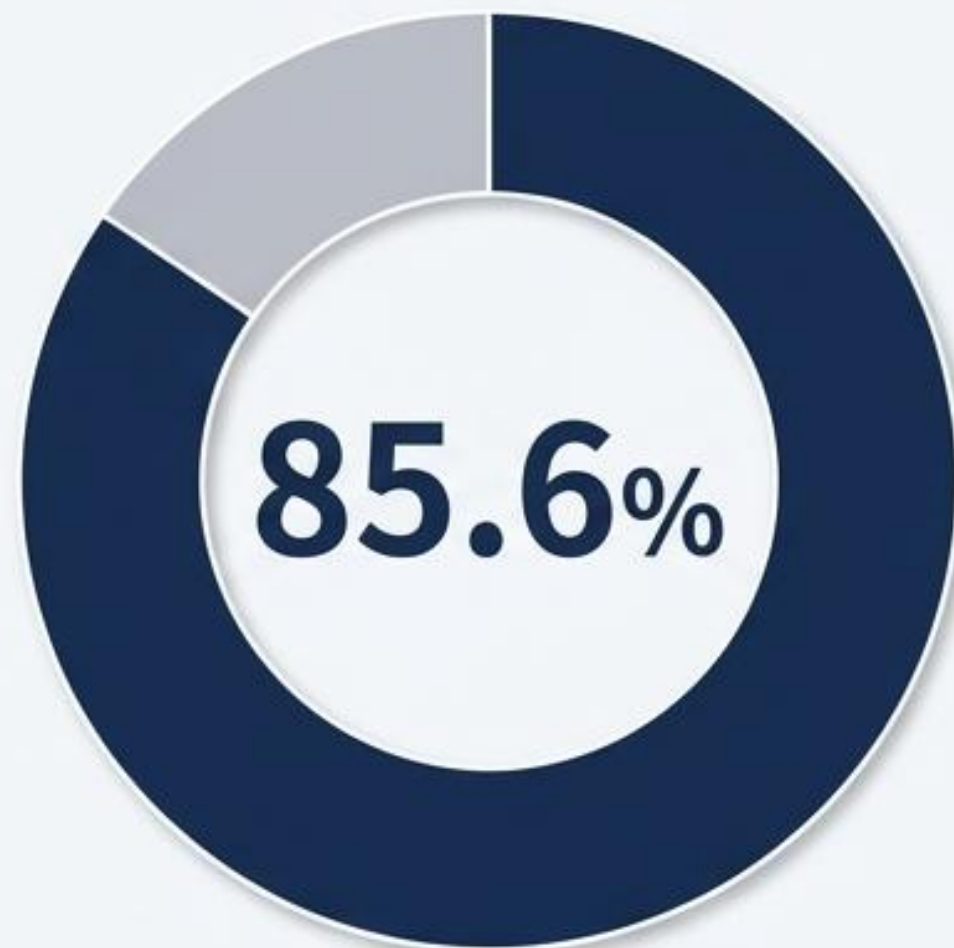
- ✓ 強み: 校内の高い安全認識
- ⚠ 課題: 通学路への不安

「強み（デジタル・人間関係）」を活かし、「家庭との連携（睡眠・読書）」と「心理的安全性の確保」を次年度の重点目標とする。

## 全体傾向：児童の85%以上が学校を楽しみ、周囲からの承認を実感している



自己肯定感  
(Q6)



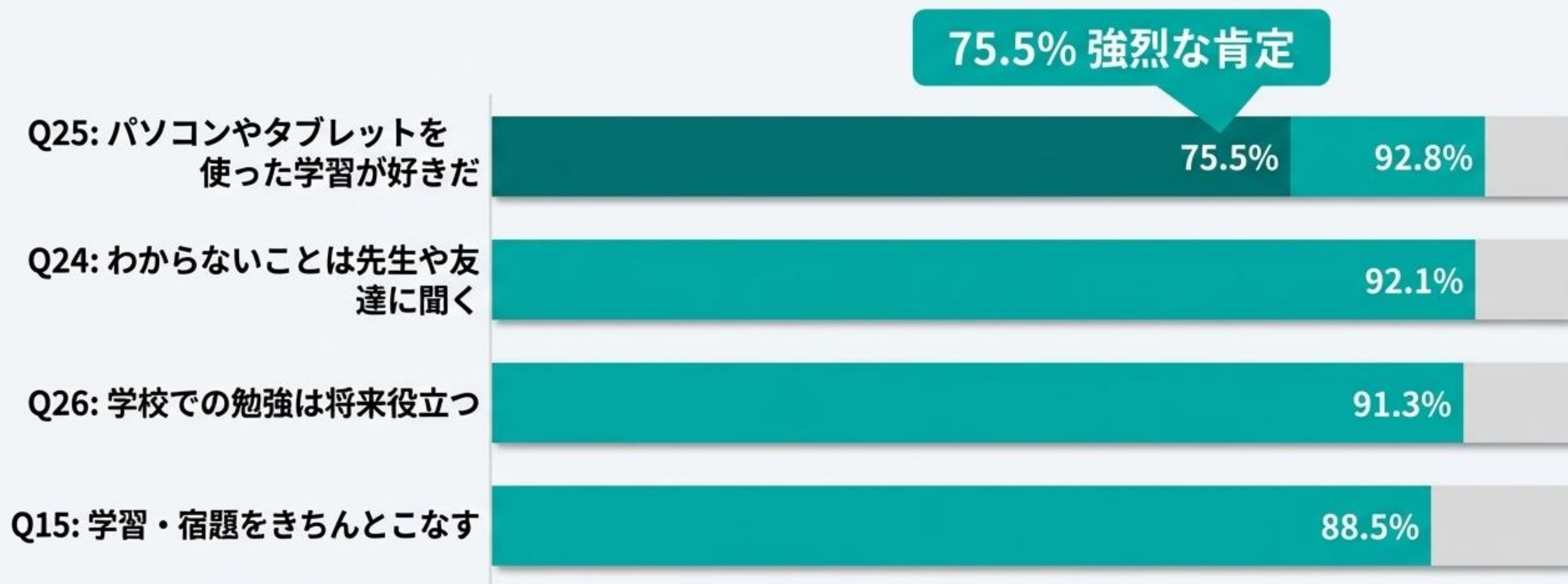
学校生活への満足度  
(Q3)



承認実感  
(Q29)

家族や教員からの「ほめられる経験 (94.9%)」が、高い「学校生活の楽しさ」を支える盤石な基盤となっています。

# 【知】 デジタルネイティブの強み：圧倒的なICT学習への意欲

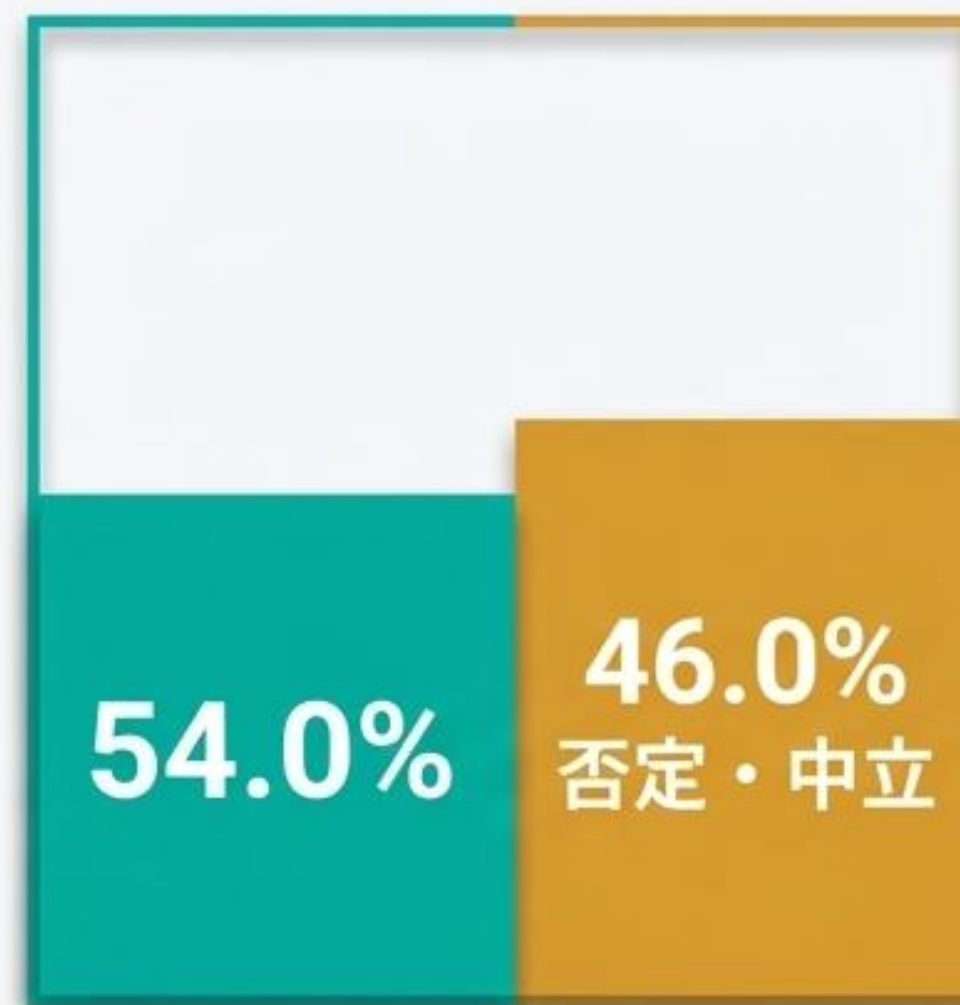


児童は単に作業として宿題をこなすだけでなく、将来への目的意識（91.3%）を持ち、ICT（92.8%）を積極的に活用する現代的な学習姿勢を身につけています。

## 【知の課題】 「与えられた学習」から「自発的な探求（読書）」への大きな壁



宿題や自主勉強をしている (Q15)



学校以外で本や新聞を読んでいる (Q17)

アクション: 宿題などの「構造化された学習」は非常に優秀ですが、知的好奇心を自ら広げる「読書習慣」には明確な課題があります。家庭と連携した読書推進アプローチが急務です。

## 【徳】 思いやりと感謝が循環する、極めて良好な友人関係



児童間の人間関係は驚異的な水準で良好です。日常的な「感謝 (96%)」と「思いやりの声かけ (93%)」が、ほぼ100%に近い友人関係の構築を可能にしています。

# 【徳の課題】 良好な関係性の裏に潜む「教室内の見えないSOS」

97.8% に仲の良い友達がいるが...

# 40.2%

の児童が「クラスに悩んでいる友達がいる」と感じている。

Compounding Risk

## 27.3% 否定/中立

困った時にだれかに相談できない (Q31)

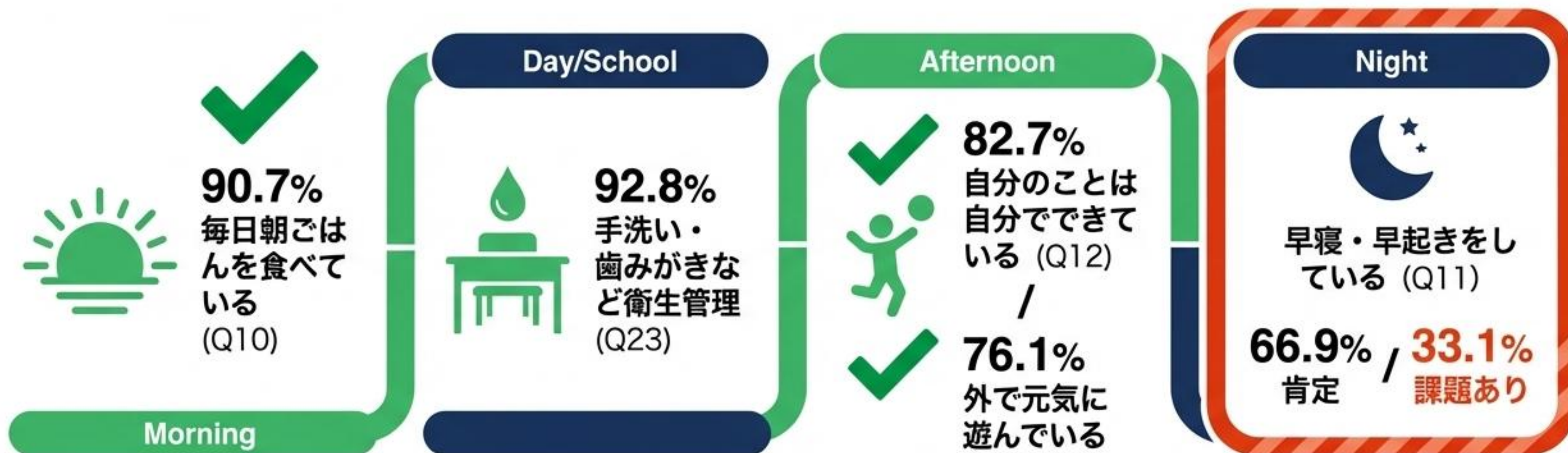
Compounding Risk

## 26.6% 否定/中立

人にやさしい言葉づかいができていないと感じる (Q21)

アクション: 友達はあるものの、クラス内の不穏な空気（誰かが悩んでいる）を約4割が察知しています。同時に、約3割が「相談へのハードル」を感じており、早期発見・介入の仕組み（SOSの出し方教育）が必要です。

# 【体】 高い自立心と活発さ。 しかし「睡眠のサイクル」に現代的な課題



朝食や手洗いなど、目に見える生活習慣は9割以上が遵守しています。しかし、3人に1人（33.1%）が早寝早起きに課題を抱えており、デジタルデバイスの利用ルールを含めた家庭啓発が求められます。

## 【環境】 「安全な校内」と「不安の残る通学路」の明確なギャップ

82.7% 肯定



学校の中は安全だと思う (Q18)

65.5% 肯定 34.5% 否定・中立



通学路は安全だと思う (Q30)

校内環境への信頼は高い一方で、3割以上の児童が登下校の道程に不安を抱えています。  
PTAや地域ボランティアと連携し、通学路の危険箇所マップの再点検と見守り体制の強化が必要です。

# 感謝と好奇心が育つ学校。 さらなる安心と成長のために。

本アンケートが示す最大の成果は、「子どもたちが自分自身と友人を大切にし、学校に喜びを見出している」という事実です。  
この素晴らしい基盤の上に、教職員、保護者、そして地域が一体となって「見えない不安」を取り除き、令和8年度が子どもたちにとってさらに豊かな1年になるように取り組んでまいりましょう。